

病院報告の概況

(1) 在院患者延数

令和6年中の京都市内の病院における在院患者延数は5,216,452人で、前年に比べ90,895人（1.77%）増加した。年次推移をみると、昭和45年以降増加を続けていた在院患者延数は、平成元年をピークに増加・減少を繰り返している。なお、全国では前年より1.1%の増加となっている。

病床の種類別では、精神病床で0.3%増加、結核病床で29.2%増加、その他の病床で2.6%増加した（図1-1）（図1-2）。

※ 新型コロナウイルス感染症患者については、令和5年5月8日から感染症法上の位置付けが5類感染症に変更されたことから、同日分の報告以降は、実際に入院している病床の種類（一般病床など）の患者として計上。（令和5年4月24日厚生労働省事務連絡）

図1-1 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移
(精神、結核、その他)

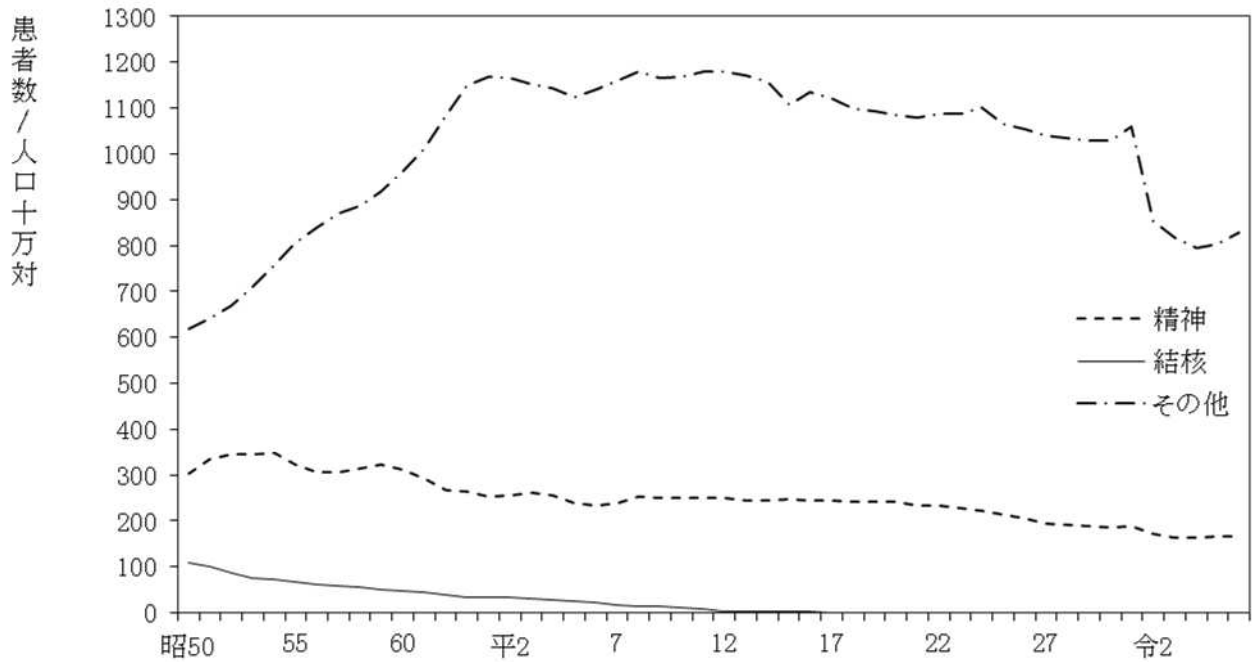
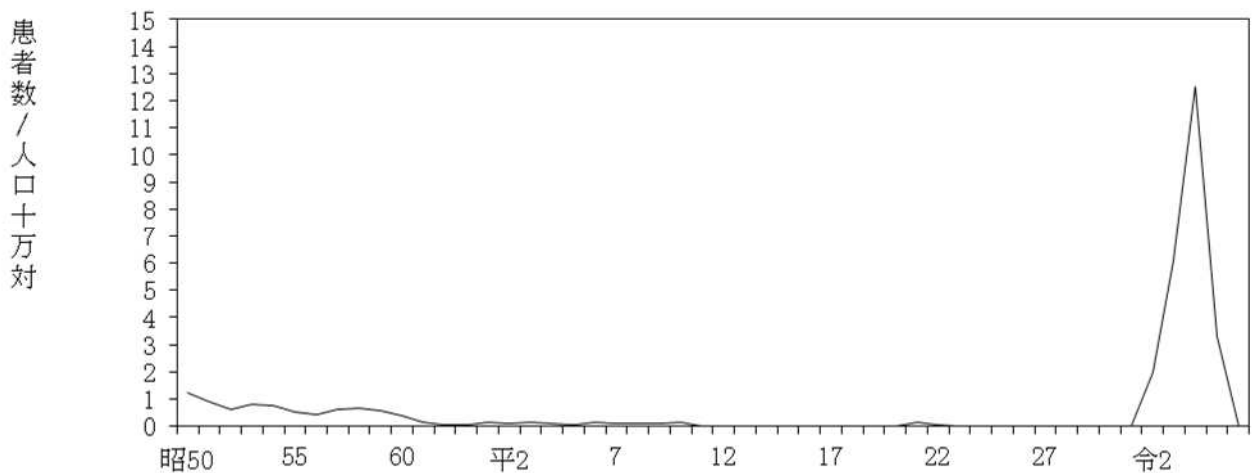


図1-2 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移
(感染症)



(2) 新入院・退院患者数

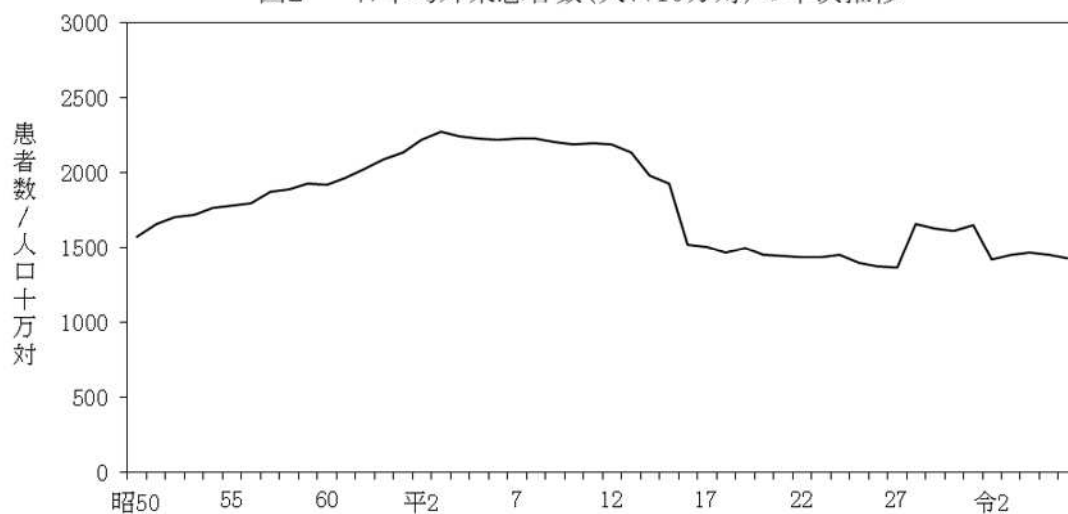
令和6年中の京都市内の病院における新入院患者数は239,313人で、前年より5.4%増加（全国7.7%増加）した。また、退院患者数は238,704人で、前年より5.3%増加（全国7.5%増加）した。

一日平均では、新入院患者数が656人、退院患者数が654人であった。

(3) 外来患者数

令和6年中の京都市内の病院における外来患者数は6,127,479人（一日平均16,788人）で、前年より1.4%減少（全国3.3%減少）している（図2）。

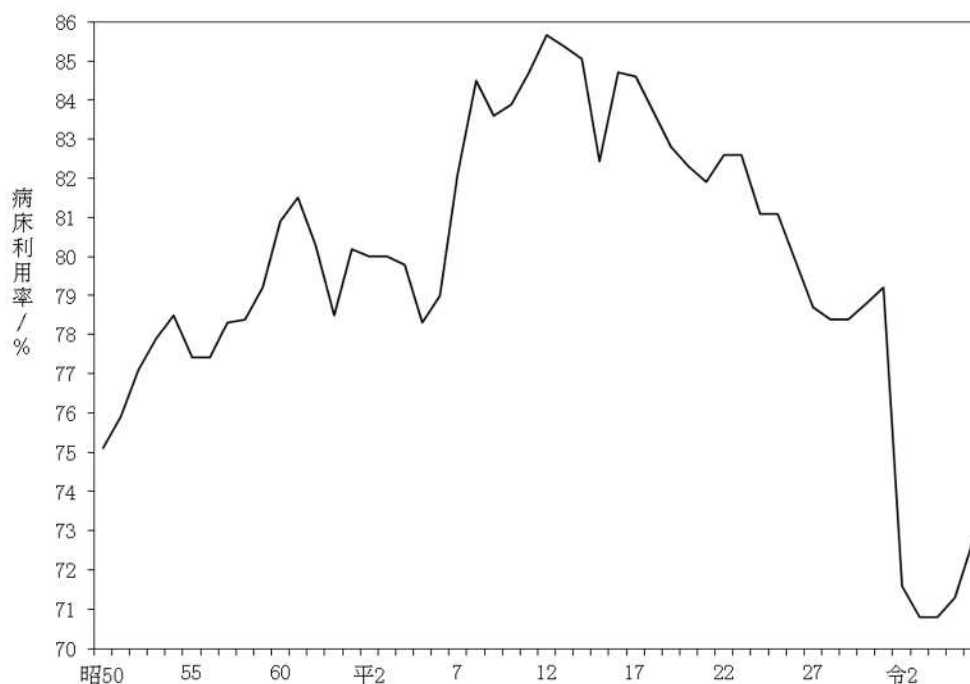
図2 一日平均外来患者数(人口10万対)の年次推移



(4) 病床利用率

令和6年中の京都市内の病院における病床利用率は72.7%（全国77.0%）で、前年と1.4%の増加（全国1.7%増加）であった（図3）。

図3 病床利用率の年次推移



病床の種類別では、前年に比べて精神病床は1.1%増加し、結核病床は1.0%増加、その他の病床は1.8%増加した（図4-1）（図4-2）。

図4-1 病床種類別病床利用率の年次推移
（精神病床、結核病床、その他病床）

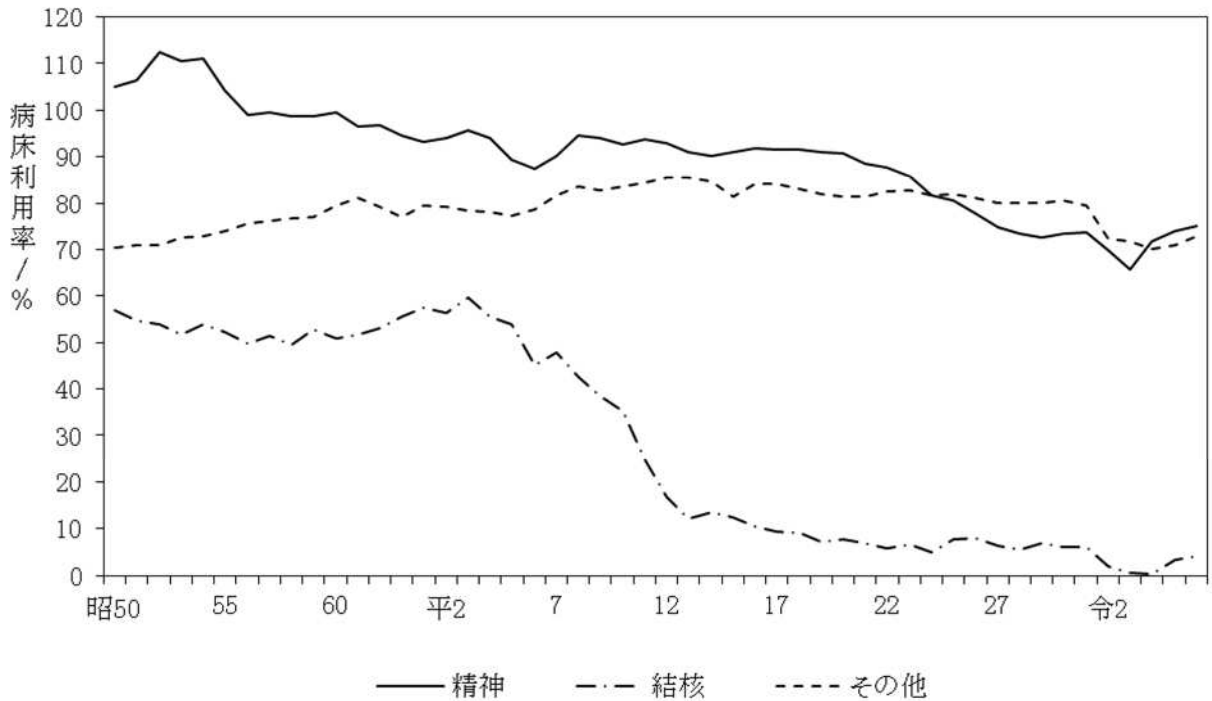
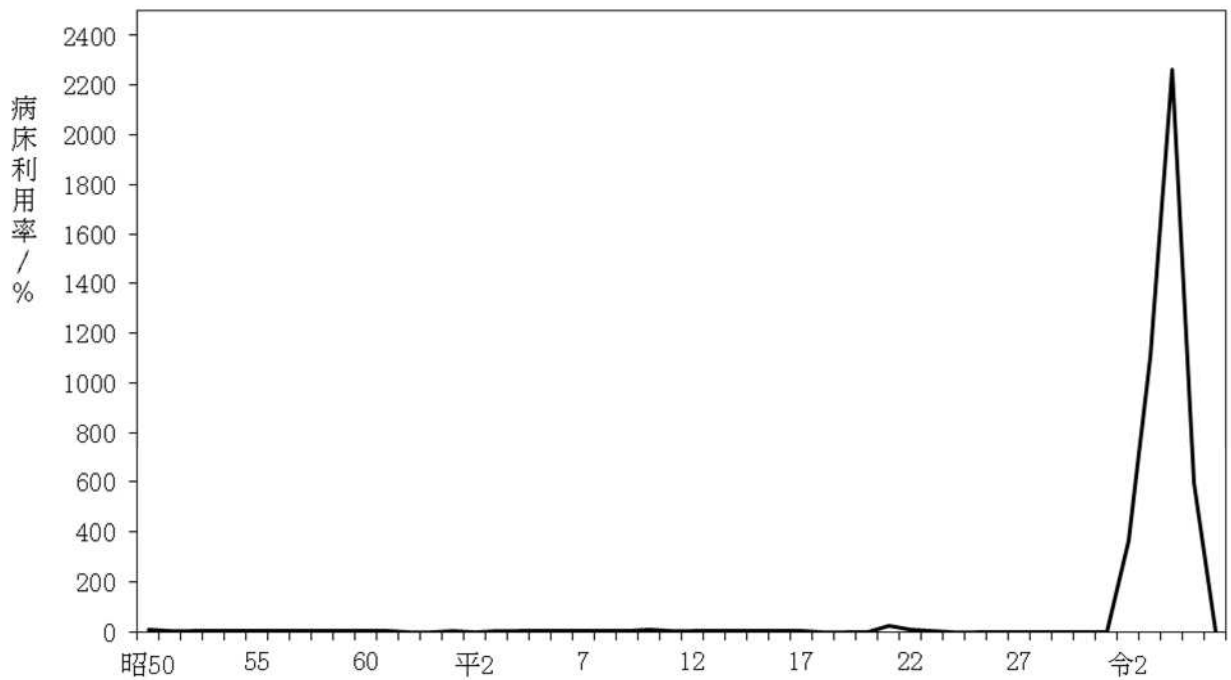


図4-2 病床種類別病床利用率の年次推移(感染症病床)



(5) 平均在院日数

令和6年中の京都市内の病院における平均在院日数は21.8日（全国25.6日）で、前年より0.9日短くなっている。年次推移では、平成元年までは長くなる傾向にあったが、平成2年以降は、短くなる傾向にある。（図5）。

病床の種類別では、精神病床が258.5日（全国255.0日）、結核病床が59.2日（全国49.4日）、感染症病床が0日（全国9.2日）となっている（図6）。

図5 平均在院日数の年次推移

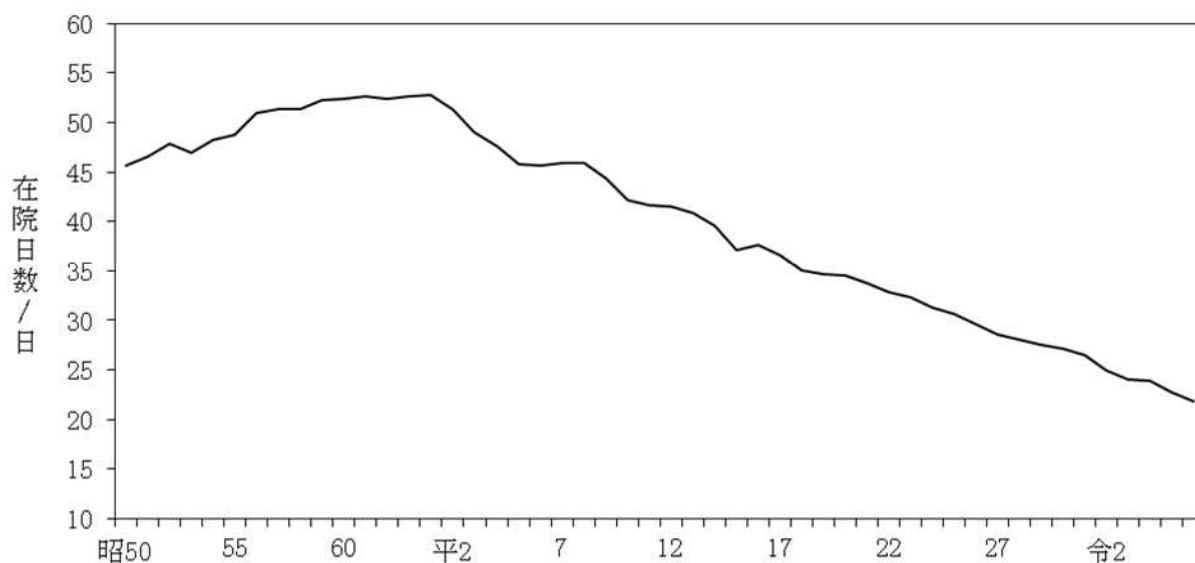


図6 病床種類別平均在院日数の年次推移

